

第6回 明治大学小史展

あかし しるし

証・識の明大史

—証書・校章・表札—

2000・11・10（金）～2001・2・28（水）

大学会館1階ロビー



明治36年制定の校章



現在使用のもの

今回は明治大学であること、明治大学関係者であることを示す史料を紹介します。

とくに本展示では、所蔵史料の中から証書類、校章・マーク類、表札類にしぼって、いくつかを並べてみました。

今後は他の史料も取り上げたり、またさらに分野をしぼって展示をしたいと思っております。

展示品

1. 定期試験及第之證（明治20年6月27日）

明治法律学校（のちの明治大学）では厳しい試験が行われ、学期毎に昇級の証書を発行しました。

2. 入校試験及第之證（明治22年2月1日）

入試の合格証書です。ただし、この重藤鶴太郎の入学は明治19年ころ、卒業は22年12月です。この証書の交付年が合わないのは、前年、文部省の特別認可校となったことによる措置のためと思われます。

3. 聴講券（明治22年11月）

明治法律学校の聴講生制度は明治37年からですので、これは一般学生の授業受講許可証のようなものである。

4. 卒業證書（明治22年12月31日）

草創期の明治法律学校の卒業証書です。当時の教員名が列記されています。

5. [優待生の証書]（明治35年7月14日）

明治法律学校で優秀者を表彰するのは明治22年3月からです。24年には優待生として、さらに26年には特待生として、学校の名声を高めようとしたしました。

6. 学帽と制服鉢章の写真（明治36年11月）

明治法律学校の組織変更の時、このようなマークが作られました。今日の校章の前身です。

7. 修業證書（明治37年11月7日）

専門学校令下の明治大学となったのは明治36年8月のことです。この校外生制度とは、今日の通信教育のようなものです。

8. 卒業證書（大正13年3月31日）

大学令により明治大学に昇格したのは大正9年4月のことですから、この証書は、それからまもない頃のものです。

9. 応援歌「若人『明治』の歌」楽譜（昭和3年5月16日）

「若人『明治』の歌」楽譜、歌詞が記された表紙には、おなじみのMeijiのマークがペナント風にデザインされています。



10. 正門の門標（昭和3年、同25年頃）

はじめは木製であった本校正門の門標も、やがて関東大震災の復興の際に金属製となりました。また戦後の短期大学開校の時にも同じような門標がつくられました。

11. 生徒證（昭和15年4月10日）

同年に予科に入学した武石益則氏（のちに政治経済学部、戦死）の生徒証です。

12. 学業成績表（昭和17年4月22日）

予科生（キャンパスは昭和9年より和泉）の時の武石益則氏（前出）の成績表です。

13. 卒業證書（昭和20年9月25日、複製）

敗戦の翌月、明治大学が授与したもので、紙質はよくありませんでした。

14. ビニール製風呂敷（昭和30年代）

校舎を中心にさまざまな写真とマークが印刷されています。

15. 通行証（昭和48年2月）

この史料は入試時に大学が発行したものであり、入校の際に提示しました。

16. ネクタイ・ピン（昭和58年）

工学部スポーツ大会の際に作られたものです。3代目記念館が校章の柄で描かれています。

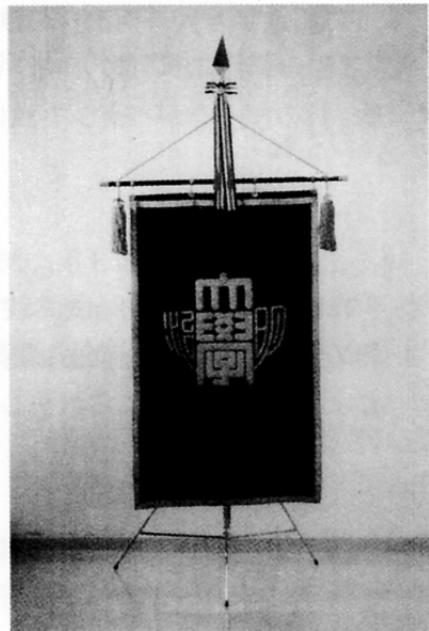
17. ラグビー部ユニフォーム姿の写真（昭和50年頃）

やや色あせてしまったこの写真パネルでもユニフォームの胸のMのマークは輝いてお

ります。

18. 全国校友福岡大会のハッピと手ぬぐい（昭和61年10月19日）

校友会の全国大会が博多で行われた時、参加者はこのハッピを着、手ぬぐいを首からかけて参加しました。



19. 明治大学特製便箋（昭和初年）

表紙にも、中の用紙にも校章が大きく印刷をされています。2枚の写真から大体、昭和10年代のものと思われます。

20. 校旗の写真（戦後）

校旗が作られたのは大正4年4月のことです、現在のものは2代目のものです。その中央部の校章は創立30周年のころ、作られたと思われます。

21. 手数料納付証（戦後）

昭和38年から60年まで証明手数料として用いられたものです。左下にMのマークの金額が記されています。

22. 明治大学債券（戦後）

この債券は大学院と新制学部の施設拡充を行うためのもので、学債総額は1億円です。

23. 学生のバッジ（戦後）

これらのバッジは、とくに学生服着用の時代、多くの学生が襟などに付けました。

2000・11・10

明治大学歴史編纂事務室

☎ 03(3296)4085・4086